

思いを適切に表出し、自己の生き方についての考えを深め合う授業の実践

～3年道徳～

1 はじめに

「道徳大すき!」、「ぼくも!」、「私も!」、ある日道徳の授業前に、私の机の前に来た子どもが言いました。「どうして好きなの?」と尋ねると、「何を話してもいいから。」「お話をたくさん読めるから。」「間違いがないから。」…。その言葉に、道徳の指導に力を入れているつもりの方は戸惑いました。私の普段の授業は、道徳の本質に本当に迫っているのでしょうか?

道徳の授業では、単なる物語の読解や感想の発表に終始するのではなく、自分の本当の思いに向き合い、それを素直に表出しながら学習を深めていくことが不可欠です。そこで、「よりよくなりたいたい、でも…」という素直な思いを表出し、互いに認め合える場を計画的・段階的に設定していけば、自己の生き方についての考えをより深めていけるのではないかと考えます。

日頃接している子どもたちの粘り強くめあてに向かって頑張る姿に、「よりよくなりたいたい」との願いをもっていることが感じられます。反面、自分の思いのよさをうまく表現できずに生活している子どもがいることも事実です。子どもたち自身がこうした事実や思いにしっかりと向き合い、学んでいくことがよりよい自分を目指していく「自己啓発力」の育成につながると考えられます。

2 「自己啓発力の育成」

(人としてよりよく生きようとする意思や態度を身につけた子ども)

○ 資料名「二つの声」(東京書籍3年)

(1) 共感的人間関係を育む教育活動

(ペア学習や相互評価等を取り入れる等、お互いのよさを認め合う場の設定)

本授業では、全員発表を2回行った。1回目は本時での価値にあたる「勇気」について。2回目は資料の中心発問で、主人公の葛藤が描かれている部分。友だちの考えと同じでも自分の言葉として話しをさせた。

- ・(勇気とは) 強い心だと思います。
- ・(勇気とは) 正直なこと。
- ・(勇気とは) 自信を持って取り組むこと。
- ・(頭を抱えたのは) どっちが正しいのか分からなくなったから。
- ・(頭を抱えたのは) 正直に言った方がいいと思ったから。
- ・(頭を抱えたのは) どうしようかな、という気持ち。
- ・(頭を抱えたのは) 言うか言わないか迷っているから。
- ・(頭を抱えたのは) 今言ってもいいかな、という気持ち。

資料の中心発問で様々な意見が出たことは、子どもたちが資料の主人公に自分を重ね合わせ、考えを深めている過程が表れたものであると思う。



自分の考えを自分の言葉で表出する。「〇〇さんと同じで…」と続けても表現に違いがある場合が多い。

また、最初の場面で何も言わずにその場を立ち去った主人公の行動が、「良い心(強い心)」「悪い心(弱い心)」のどちらに従ったのか、また、それはどうしてかをペアで発表させ、その後まわりの友だちとも交流させた。

- ・先生に怒られると思ったんじゃない？
- ・弱い心に負けたんだよ。
- ・だれにもわからないと思った。

ペアで話し合わせると、グループの時より気軽に自分の考えが表出できる。迷っている子も相手に合わせることで、自然とその考えを自分のものとして話すことができたと思う。

(2) 自己存在感が実感できる教育活動

(発表する場や集団の一員として役割を担う場の設定)

道徳の価値に迫るために、「友だちに本当のことを言ったとき」と「なにもせずこのまま帰ったとき」の主人公の気持ちを考え発表し、一つにまとめるという班活動を2回行った。班の友だちの考えを聞いたり、自分の考えを話したりしながら班としての意見をまとめていくことができた。

- ・(本当のことを言えた) 勇気をもって言えた。
- ・(本当のことを言えた) すっきりしたな。
- ・(本当のことを言えた) 正直でよかった、って気持ちじゃない？
- ・(このまま帰った) 先生にますます怒られると思う。
- ・(このまま帰った) やっぱり言った方がよかったかな、って気持ちになるよ。
- ・(このまま帰った) 二郎君に悪かったかなっておもうと思う。

班長を中心に話し合いをさせることで、班長が「〇〇君から言って。」「他には？」などと言いながらリーダーシップを取ることができた。また、ペアでの話し合いより多くの意見に触れることができ、全体での発表では挙手ができない子でも自分の考えを表出できるなど、主体的な活動が多く見られた。

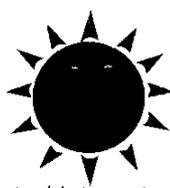


班で一人ずつ意見を出し合い、考えをまとめる。
「〇〇くん、発表お願いね。」
「いいよ。」

(3) 自己決定ができる場の充実(調べる、考える、書く場の設定)

授業の終末に主人公に向けて励ましの手紙を書いた。班で十分に話し合いをしたことで、あまり時間をかけずに全員が書くことができた。

書いた後は意図的指名で3人に発表させる。友だちの手紙の内容を聞きながら、「ぼくも同じこと書いた。」「ちょっとぼく



よ強
に
た
ら
ん
で
先
け
ず
に
強
い
心
を
使
い
ま
す
よ
正
二
さ
ん
へ
先

味をもった。

主人公への手紙を書くことで、自分の思いや考えを整理でき、また発表する時にも書いたことを基に自信をもって考えを述べることができた。

「強い心の人になって。」と励ましの手紙を書く。

3. おわりに

道徳の授業の中で、子どもたちが自己の生き方についての考えを深めていくためには、計画的・段階的に自分の考えを表出する場の設定が必要です。本授業では、下記の図のような流れで子どもたちの考えを引き出しました。今回は一斉で挙手によって意思表示させたり、同じ発問で全員に発表させたり、ペアや班で発表させたりと自分の考えを表出させる場を多く確保できました。これからも子どもたちが自分の思いを素直に表出できる場の設定を工夫し、自己の生き方について互いの考えを認め合い、深める授業を目指していきたいと思います。

